

提出部数は正副2部必要です。

様式第1

〈記入例〉

ばい煙発生施設設置 ~~(使用、変更)~~ 届出書

届出内容と条文を対応させて
ください。

令和〇〇年4月1日

秋 田 市 長 殿

届出書は工事着工の60日前
までに届出てください。

住所 東京都〇〇区△△1番2号

届出者 〇〇株式会社

氏名 代表取締役 〇〇 〇〇

法人の代表者は代表権者です。

大気汚染防止法第6条第1項~~(第7条第1項、第8条第1項)~~の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇株式会社 △△	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	秋田市〇〇一丁目2番3号	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	1 ボイラー	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備 考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考
- 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
 - 2 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させて記載すること。（変更概要を別に記載してください）
 - 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。（設置箇所や変更箇所に色づけ等をしてください）

緊急連絡先

- ・施設を管理する担当部署が分かること
 - ・事業場の電話番号および緊急時に連絡を取ることができる電話番号を記載すること
- 書き切れない場合は別紙添付でも可。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー	事業場での任意の名称
名称及び型式		貫流ボイラーEX-1型	カタログ記載の名称等
設置年月日		年月日	年月日
着手予定年月日		令和〇〇年6月1日	届出日の60日以降の日付
使用開始予定年月日		令和〇〇年6月15日	着工予定日から予想される使用開始日
規 模	燃料の燃焼能力(重油換算l/h)	100 l/h	気体、固形燃料を使用する場合、注意
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積(m ²)		
	変圧器の定格容量(KVA)		
	触媒に附着する炭素の燃焼能力(kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
	乾燥施設の容量(m ³)		
	電流量(KA)		
	ポンプの動力(KW)		
	合成・漂白・濃縮能力(kg/h)		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄にそれぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付してください。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用状況

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	6時～20時 14時間/回 1回/日 31日/月			時～	時	時間/回 回/日 日/月
	季節変動	あり (○月～△月稼働)			暖房用として使用するボイラー等		
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合 (%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分		いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類	A重油					
	燃料中の成分割合 (%)	灰分 0.05	いおう分 0.5	窒素分 0	灰分	いおう分	窒素分
	発熱量	45600 kJ/kg (高位)			分析表等で確認		
	通常の使用量	60 l/h (60%)					
	混焼割合	専焼					
排出ガス量 (Nm ³ /h)	湿り	最大 850	通常 760		最大	通常	
	乾き	最大 750	通常 690		最大	通常	
排出ガス温度 (°C)	80						
排出ガス中の酸素濃度 (%)	4						
ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	最大 0.3	通常 0.3		最大	通常	
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 40	通常 40		最大	通常	
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩素素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩化水素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 120	通常 120		最大	通常		
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大 0.061	通常 0.037		最大	通常	
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合 (%) の欄及び燃料中の成分割合 (%) の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン又はディーゼル機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

事業場での任意の名称

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		脱硫装置1号	1号煙突	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー	1号ボイラー	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		〇〇型湿式脱硫装置1号	集合煙突	
設置年月日		年月日	平成△年 △月 △日	
着手予定年月日		令和〇〇年6月1日	令和〇〇年6月1日	
使用開始予定年月日		令和〇〇年6月15日	令和〇〇年6月15日	
処理能力	排出ガス量(Nm ³ /h)	最大	850	既に設置しているばい煙処理施設に接続する場合は、その設置年月日も記載。
		通常	760	
	排出ガス温度(°C)	処理前	250	
		処理後	80	
	ばいじん(g/Nm ³)	処理前	0.3	
		処理後	0.3	
	いおう酸化物(容量ppm)	処理前	500	
		処理後	40	
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	塩素(mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	塩化水素(mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	鉛及びその化合物(mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
窒素酸化物(容量比ppm)	処理前	120		
	処理後	120		
ばい煙量	いおう酸化物(Nm ³ /h)	最大 処理前	0.301	
		最大 処理後	0.061	
		通常 処理前	0.181	
		通常 処理後	0.037	
捕集効率(%)	ばいじん			
	いおう酸化物	80		
	カドミウム及びその化合物			
	塩素			
	塩化水素			
	弗素、弗化水素及び弗化珪素			
	鉛及びその化合物			
	窒素酸化物			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	6時～ 20時 14時間/回 1回/日31日/月	6時～ 20時 14時間/回 1回/日31日/月	
	季節変動	あり(〇月～△月稼働)	あり(〇月～△月稼働)	
排出口の実高さ Ho(m)			9	
補正された排出口の高さ He(m)			9(傘有り)	
排出速度(m/s)			1.58	

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。(煙突等の設置年月日を記載)
- 3 補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算出すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。(測定口、内径の位置を明記)